

第8回安来市小中学校適正配置審議会 議事録

1 審議会日時 令和5年2月1日(水)

2 開催場所 安来中央交流センター

3 出席者等

(委員) 内田 成人、田邊 憲明、加藤 寛通、恩田 集司、川上 通子、江戸 宣文
原 義昭(欠席)、大西 啓治(欠席)、奈良井 丈治、中尾 美樹夫、本山 禎彦
北川 正幸、小松原 克己、作野 広和、米田 健、池田 さゆり、田淵 秀喜
伊達 紗由里、板垣 学、福井 香衣

(事務局)

教育長 秦 誠司 教育部長 原 みゆき 政策推進部長 宇山 富之
教育総務課長 遠藤 浩司 学校教育課長 三保 貴資 地域振興課長 石井 美佐子
学校教育課主査 糸賀 真也 学校教育課社会教育主事 小西 修二
教育総務課係長 青戸 かおり 学校教育課係長 佐伯 由里子
地域振興課係長 渡邊 悟史 教育総務課主幹 田中 絵理子
教育総務課主任 岩見 佳奈子

4 次第

(1) 教育長あいさつ

(2) 開会

(3) 資料説明

- 1) 交流センターを核とした地域づくりのあり方検討委員会の報告について【資料1】
- 2) 各地区の説明会での意見集約【資料2】(非公開)
- 3) 安来市小中学校適正配置(会長私案)【資料3】

(4) 意見交換

(5) 今後の予定

(6) 閉会

5 内容

(1) 教育長あいさつ

第8回の審議会を迎え、これよりますます適正配置の具体的な審議をいただくこととなってきた。前回、協議の視点を会長私案という形でご提案をいただいたところであり、本日はさらにまとめたものを提案いただく。各委員の皆様には、積極的に発言をいただくようお願いしたい。

事務局としては、基本方針の説明会を、1月31日現在市内38ヶ所で開催し、約900名の皆様方のアンケートやご意見を賜ったところである。

また、昨年12月の作野先生の講演会、前回の審議会終了後の新聞報道、或いはどじょっこテレビ等での発信で、徐々に関心が高まりつつあるようだ。私たちとしては引き続き丁寧な説明を行っていく必要があるということを感じている。今後とも答申に向けて審議いただくことを重ねてお願いしたい。

(2) 開会

・上田裕太委員の退任に伴い、内田成人委員が就任。

(会長)

開催にあたり私から一つ説明をさせていただきたい。12月18日に私の講演をさせていただき、その2日後、12月20日に前回の審議会があった。その時点では講演会に関する新聞報道はなされていなかったが、その後新聞記事が掲載された。新聞社さんは取材や編集権があり、新聞社さんの意図で書かれているが、新聞ではあたかも、安来市小中学校の適正規模の基準を、作野が述べたかのように報道されている。会場にいた方は十分ご理解いただいていると思うが、質問に応じて、他の自治体では概ねこういう数字を下回ると小学校の場合は統合されることが多いという趣旨を述べたが、安来市の基準の試案を出したかのように新聞に出ていた。弁解するつもりはないが、事実関係は審議会の委員の皆様にはきちんと説明したい。

また、1月1日の同じく山陰中央新報の一面に私のコメントが載っており、中にインタビュー記事があった。その中に、保護者の声を聞かなくてもいいかのような表現があった。これは少し弁解すると、年末の非常に慌ただしい時間に取材があり、掲載前の記事の確認もなかった。保護者だけが学校の存廃を決めるわけではない、そういう趣旨のことを申ししたが、意図的なのか或いはそう捉えられたのかわからないが、そう表現されていた。審議会のメンバーには保護者もたくさんいる中で、不愉快な思いや、そういう考えはいかがなものかと思われた方もいたかもしれない。お詫びを申し上げたい。

しかし、すべての発言には責任を持っているので、ご意見等あれば、公の場でも私的な場でも言っていただければ、お答えさせていただきたい。

(3) 資料説明

○資料1について地域振興課長が説明。

・年齢や性別を問わず、持続可能な地域づくりが行われるよう、関係者が互いに連携協力をしながら進める必要がある。

・少子高齢化が進む中で、過去からの踏襲制度にとらわれることなく、総合的に課題解決に取り組む必要がある。各地域の特性を生かした仕組みづくりが求められる。

・現在ある24館の交流センターの体制は維持し、地域の活動拠点とする。

・現在の子算や事業の承認機能としてある運営協議会のあり方を、地域運営組織として実施できるように変えていくなどの検討が必要だと考える。例を別冊「安来市交流センターを核とした地域づくりのありかたについて(報告)」の8~9ページにも記載している。

・地域それぞれの課題解決に向けた地域運営組織の支援や、調整役の役割が必要。

・住民が集まる場、活動拠点としての役割は、今後も継続して行い、地域運営組織と連携し、住民ニーズや実情に応じた取り組みに加え、子どもたちを含めた地域の次世代を担う人材育成を目指した事業などを実施することで、コミュニティの希薄化を防ぎ、住民自治の実践の場となることが期待される。

・人的支援については、伴走型支援体制の構築や今後の支援体制の検討があり、中間支援組織の導

入の検討も今後していく予定。

・財政的支援については、地域主体の積極的な取り組みに対しての支援を検討していく。またその積極的な取り組みを発表できる場を設け、波及できる場を作ることを考えている。

・各部署をつなぐ全庁的な取り組みが必要となるケースもあり、地域が求める支援に迅速に対応できる体制の構築が必要だと考えている。

・地域運営組織の設立や中間支援組織等の導入を考えた場合の先進地視察研修を考えている。

・財政面の方からは、助成事業の拡充等を進めていきたいと考えている。

(委員)

地域づくりの方向性の中で、地域で機動的に動けるチームを作って、アクションプラン等を基にして進めていると思うが、地域によって非常に濃淡があるのではないと思う。どうやってそのようなチームを作るのか、編成の方法はどう考えているのか聞きたい。

また、人的支援の検討の中間支援組織というのは、具体的にどういうことするのか。中身を教えてください。

(地域振興課長)

一つ目の質問だが、おっしゃるように今現在安来市の交流センターでは、地域ビジョンを作っているところとそうでないところに二分化されている。地域ビジョンを作っているところでも、実際にビジョンだけで、アクションプランがないところが多くある。そういうところに対して、前に進んでもらうために、あまり初めからハードルを上げていくと、誰も大変なことはしたくないとそっぽを向く現状があるので、取り組みやすいところからでもスタートしないかというところをここに謳っている。

地域によって問題も様々であるが、その中でも必ずキーマンという方はいる。その方を例えば交流センターが上手に捕まえる、或いは、その方がどうにかしようと思っていることを交流センターが支援する格好で、小さなことから始めていって、どんどん大きくしていくというのがこのねらい。

次に、中間支援組織はこちらもまだこれから勉強していかなければならないところであるが、今皆様に配っている報告書の中の11ページの一番下に、※印で中間支援組織とは、と書いている。行政と実際に動かれる市民のパイプ役として、うまいこと回れるように、支援をしていただくような組織のことを言っている。これは現在、安来市の中にはない。これを進めていく方がいいのかどうかということは今後視察等した上で検討していこうと考えている。

(会長)

今日は中身を議論する機会ではないが、今の話は学校と地域との関係のところに影響してくる。また前回審議会の最後の方でも、安来のよさはあるが、それを市民がなかなか認識できていなかったり、或いは地域のよさを発揮できる活動はできていなかったりという確認があった。そういうことに繋がる質問であった。

(委員)

若者というのは、どの辺りの年齢を想定しているか。

(地域振興課長)

実際に視察等で見せていただいた中では小中学生でも、その立派な町の構成員として大人が認識していて、子どもだからと言って排除ではなく、一緒にやっぺいこうと頑張っているところは、子どもも自分たちが背中を押されていると感じながら成長しているというのがわかった。年齢の線引きという

のは、あえてここではせず、50代でも60代でも、今はもう若者の部類に入ってくると思うが、今一番地域で何とかしなければいけない、動かなければいけない、これからを背負っていく今の次世代の若者と考えてほしい。

(会長)

私は本来、こちらの方が最も専門であり、総務省の地域運営組織のあり方の検討、研究会のメンバーでもある。地域運営組織を作っていくという方向性はいいと思うが、実際なかなか大変であるということだろう。

それから、チームで動くとうことはすごくいいことだが、それが地域の活動となると、地域代表性を担保しないということで、地域が分裂したり、いろいろ合意がないまま進んだりすることにより異なる次元のハレーションが起こったりする。

中間支援組織について、自然発生するのが一番いいと思うが、そのきっかけがない場合は行政が作る場合もある。非常に参考になるのは、島根県益田市の豊かな暮らしのラボラトリー（ユタラボ）である。中間支援組織というと、組織になってしまうが、機能を有するというようなことだと、例えば郵便局やJA、商工会や商工会議所の青年部などが実質的に中間支援機能を担うということもあるので、多様な議論ができると思う。

○資料2（非公開）説明会での意見を地区ごとに集約し教育総務課長が説明。

○令和17年度の児童生徒数の見込みについて（参考資料、非公開）教育総務課長が説明。

(会長)

資料2については、かなり詳細な意見等もある一方でまだ開催していない地区もたくさんあるので、これを直ちに分析することはしにくいですが、様々な意見があるというのはよくわかる。

(委員)

あとどれくらい説明会が残っているか

(教育総務課長)

小・中学校全22校、交流センター24館となっているが、小中学校は若干雪の影響で延期等もありますが、まだ残り8校、交流センターは残り5館である。

(委員)

非常に細かく、いろんな意見がたくさん出ているなどと思った。出かけてやりとりする時に、教育委員会として、その場で答えていく中身も当然あるだろうし、この適正配置に関わる中身で最終的に結論が出る部分もあるだろうし、個別な案件として、教育委員会や市としてきちんとお答えをしていかなければならない中身も当然あるだろうと思う。そういった部分の対応はどうする考えなのか聞きたい。

(教育総務課長)

学校単位の説明会は教育委員会のみで実施し、地域交流センターで実施するときは、政策推進部の地域振興課と教育委員会が両方でかけている。なるべく皆様の質問に答えられる体制を作っている。今の質問だが、以前お配りした説明会の実施状況の資料の中に、寄せられたご意見ご質問というページがあり、質問に対して答えているものを掲載している。ただ、現時点、審議中であるものについては、我々の回答が独り歩きしてもいけないので、そこは線引きをし、これは検討中のため、今後報告させていただくという形で対応している。

(委員)

この参考資料の児童生徒数の推移で、令和 17 年の安来市の人口が何人ぐらいか、教えていただきたい。

(政策推進部長)

今現在の人口ビジョンの安来市の将来人口の推計で 2035 年は、大体 3 万 1000 人ぐらいを想定したものとなっている。あくまでもビジョンだがホームページにも人口ビジョンは載っている。

○安来市小中学校適正配置（会長私案）について作野会長が説明。

1. 答申の前提

・ 前回の審議会においては会長私案で適正配置の考え方や学校の配置の案を作っていたが、選択肢を用意したという段階だった。先般の審議会の最後の方で、これを一つの案にして、私案で出してはどうかということをご皆さんから了解いただいた。

・ 答申の有効期限は令和 17（2035）年と想定する。大体こういう計画は 10 年程度の計画を立てる。ただし計画ができた時点で 10 年というよりも、この後の基本計画を作って実行していくところから 10 年程度と考えて、2035 年と想定した。

・ 適正配置基本方針の視点 1 から視点 4 を一体的にとらえる。視点 1 だとこの案が合致して、視点 2 だとこの案というように、どれも当てはまる原案というのはできない。視点 1 から 4 をとにかく一体的に捉え、その数字、或いは方向性を鑑みて答申を出す。逆に言えば基本方針からそれた案は、基本的には出さない。

・ 地域、学校の実態及び住民関係者の意見を十分に踏まえた上で、本審議会が決定する。これには 2 つの意味があり、地元や関係者の意見を十分に聞くということ、ただし決定する場所はこの場である。

・ 前回も教育長から発言があったが、本審議会の答申は、基本的には尊重されるものということで、この場での決定が非常に重要となる。

・ 答申における適正配置案は一案とし、複数案の提示は行わない。両論併記或いは選択肢を示すという答申もありだと思うが、そうすると結局結論がよくわからないので、基本的には答申の適正配置の案は一つとしたい。

2. 適正規模適正配置の基本的考え方

・ 適正規模については基本方針を前提としながらも、地域性を考慮して柔軟に検討する。

・ 適正配置については基本方針を前提として検討する。

・ 小学校については地域的まとまりを重視するため、現行の校区単位で検討する。

校区をばらして再編成し、校区を設定し直すのではなく、再編するならば校区単位で行い、新しく統合するなら新しい校区を設定するという意味である。

・ 中学校については、地域的まとまりを重視しつつも校区再編の可能性を否定しない。

こちらは小学校とは違い、中学校は 5 校しかないので校区の再編もあり得る。つまり現行の境界線のままが選択肢ではないということ。

・ 小中一貫教育を導入した場合であっても、義務教育学校は設置しない。

小中一貫教育というのは一般名詞で捉えれば、いろんな考え方がある。この審議会でも出されたように、義務教育学校のスタイルもあれば、併置型、或いはカリキュラム上の一体型がある。ここでは小学校と中学校を合わせて一つの学校にするという義務教育学校は選択肢としては入れない。ただし、

小中一貫教育を否定するものではない。

3.地域単位で見た適正配置の基本的考え方

・安来地域の小学校については、最小限の再編にとどめる。

・広瀬地域伯太地域の小学校については、極小規模校の統合による再編を行う。ただし、地域からの要望等がある場合は、最大限尊重する。

これまで再三にわたって私から、規模だけで考えるのではないということはお伝えしている。あくまで、適正配置を考えるその結論の出し方として、極小規模の学校は再編がありうるということ、提示したものである。

・中学校については学校規模と地域性の双方を重視して再編を行う。

基本的な考え方だが、中学校の再編も、選択肢に入れるということである。

○資料3裏面について、作野会長より説明。

・表の左側に合併前の旧市町の地域、そして現在の小学校名、そして令和9年の児童数を載せている。深い意味があって、令和9年度の子どもの数を載せているわけではないが、令和4年で考えるよりも9年で考えた方がわかりやすいと思っている。

赤いところに会長私案と書いているが、ABC案採用というのは、前回示した方向性ABCがあるが、学校単位でそれらを全部織り交ぜて述べている。教育委員会から私に対してはもちろんだが、各地域からも、審議会の会長である私に対して、要望書等が出たのは、布部小学校区のみだった。他からは、個人的にも公式にも一切言われていない。

今から案を1個ずつ申し上げる。

・十神小学校、社日小学校、島田小学校、宇賀荘小学校、南小学校、能義小学校、赤江小学校は現在のまま。飯梨小学校と荒島小学校は統合校。

実際に適正配置を考えると、皆さんも考えになったと思うが、判断は難しい。

この中で、他の可能性があるとする、宇賀荘小学校と南小学校と能義小学校が、1校になるとか、或いは南小学校と能義小学校が1校になるとか考えられる。ほかにもいろいろな選択肢がある。荒島と飯梨だけを再編するのはどうか、考え方によっては飯梨小学校と能義小学校は川を挟んでいるが近いということで、南と合わせて3校の統合ということも考えられる。一応今日の時点では、飯梨小学校と荒島小学校を統合するという案にしている。

この後、委員の皆さんの自由な意見交換をして、今日だけではなくて今後も議論して決めますので、まずは頭出し、或いは私の考えを出させていただいた。

・広瀬地域、伯太地域は似た構造になっている。広瀬地域の比田小学校、伯太地域の赤屋小学校は、下流部の学校と少し距離がある。特に比田小学校の場合は、仮に現広瀬小学校、或いは広瀬中学校のあたりに統合校を作ったとすると、かなりの移動時間がかかる。これは皆さんご存知の通り、現比田小学校から現広瀬小学校に行くだけではなくて、子どもたちは、校区内にかなり散らばっている。スクールバスを走らせると校区内を一人一人、子どもを乗せて回っていくので、2地点間の移動では済まない。そうすると1時間ぐらいバスに乗っているという状況にもなる。そのため、比田は存続させたほうがいいのではないかとというのが私の案。

ただし、ここだけ、括弧して布部と書いており、先ほど私が言った方針と矛盾している。両論併記はしないと言っておきながら、この会長私案で布部小学校だけは、両論併記をしている。これはなぜかと

いうと、布部小学校区からは、地元から私に対して、学校を存続して欲しいという、意見が出ている。

また私的なコミュニケーションにおいて、存続するのであれば、それ相応の覚悟や今後の計画が必要であると、私個人の考えをお伝えしたところ、その覚悟はあるとおっしゃっている。ただ、例外としますというんなところで例外が出てくるので、これは今日のところは括弧して布部と書いている。

伯太地域についても、規模だけで言えば、安田小学校とそれ以外の学校で統合もあり得るが、施設の問題や通学距離の問題等で、伯太地域は1小学校か、ないしは赤屋を存続させてそれ以外の学校は統合という選択肢になろうかと思う。

ここは率直に言って比田とそろえるという意味合いもあって、赤屋小学校を存続校にしている。以上が小学校の適正配置の私案である。

なお、これは統合校とか言っているのは、統合するということが前提であってどこに学校を設置するかは含んでいない。

中学校は、5校しかないので、これを再編するというのは非常に慎重な判断が必要だと思っている。結論から言うと、方向性B（規模重視）で複数のクラスが持てるようにということで、安来二中と三中を統合校にし、他の学校は現在のまま存置するという結論を今日の方案としている。

安来二中と伯太中学校は、人口重心から言えば、かなり近いところであるので、そこを統合するという考え方もあるが、私がこのように判断したのは、まず伯太中校区の生徒さんが二中と統合した場合に、学校どこに置くかにもよるが、仮に大塚や南小学校の辺りにすると、かなり通学距離があるという点がある。

もう一つは地域性を考えて、先ほど義務教育学校にはしないが、一貫教育を考えると、例えば現在の母里小学校と伯太中学校は隣接しているので、そういう案については中学校を動かさないほうが、今後の可能性が高いのではないかということ。

一方、安来二中は素晴らしい教育をされているが、1クラスでクラス替えができないということや、私がすべての学校を回った際、安来二中と、三中は、かなり古い校舎のまま、改修が十分なされていないということで、校舎ハード面でも整備する必要があるのではないかと思った。その点も考慮して、二中と三中を統合校にした。

付帯事項として、小規模校で存続する小学校の校区については地域づくりを特段強化することを要請すると書いている。これは、括弧して布部とあるところの括弧をとったら、このことが限りなく適用する。いわば例外的な取り扱いになるか、或いは小規模特認校っていうのも制度としてあるが、これはこの会でもそんなに議論になっていないし、小規模特認校も必ずしもうまくいくとは限らないので、そのことは触れていない。以上が会長私案となる。

（委員）

確認だが、比田小学校と赤屋小学校は通学距離というところを理由に、単独にという考えだと受けとめていいか。

（会長）

大きくは通学距離もあるが、地元の要請までは至っていないが、学校訪問した際には地域からのお声があったのは確かである。ただそれは、あくまで非公式な対応であるので、そういうことも加味しながら、比田と赤屋は存続したほうがいいのではないかという案である。

（委員）

二中と三中は新設という考えでいいか。

(会長)

小学校についても統合した場合は新設の方が、名前はともかく新設校になると考えているが、中学校については、新設を想定している。

ただここでは、学校間の組み合わせという点で、二中と三中が統合するという、そういう考え方であり、新設を私は考えている。

(委員)

まず答申の有効期限の関係について、先ほど概ね 10 年程度という説明があった。令和 17 年ということで答申をするわけだが、中間ぐらいにはおそらく、また大きな変化があったり、安来市そのもの行政のあり方の変化というのも当然あると思う。12、13 年先の非常に先を見据えた形で判断していかなければならないことになるが、案として一つの案にするということだが、例えば 5、6 年先の中間できちんと見直しも含めた形の答申にするのか、その辺の考え方はいかがか。

(会長)

この審議会でそういうことを明記しておけば、見直しも可能かと思う。今日、会長私案を出す際になぜ答申の有効期限が令和 17 年かということだが、先ほども申ししたが、実際の計画が作られ、地元説明等を行っていくと、それだけでも数年経ってしまうので、そこから 10 年程度と考えたのが一つの理由。もう一つはハード的な面だと思う。こういう計画に基づけば、新設統合等の学校もそうだが、それ以外の学校も改修等を必要に応じて実施するという年次計画を立てていく。そうなると、小規模校で存続したとしても、5 年経ってやっぱりやめたと言われるのは困る。最低でも 10 数年やっていく覚悟はあるかということをお聞きする意味でも、令和 17 年はどうかと考えている。

見直しが必要となったらではなく、最初から何年ごろに見直すということを答申に含めれば、いいと思うが、そのことは今日に限らず、委員の皆さんからご意見をいただき、それを含めるか含めないかも考えたいと思う。

(委員)

先ほども会長が言われたが、ハード的な部分でいう校舎の老朽化等も含めて、安来市自体も予算的なことも含めて、学校施設等の改修等の部分の計画も早い遅いがあると思う。そういうところを全く管理せずに、我々としては、統廃合の問題、出すのがいいのかどうか、検討しないといけないと思うがいかがか。

(会長)

それはこの審議会でも詳しい説明があったように、加味した上で結論を出す。だからこの適正配置の案も、具体的には書いてないが、当然そういうことも念頭に置いて出している。また再三確認したが、教育長が答申は尊重するとおっしゃるので、我々の判断に基づいて、そういう学校の整備も、予算措置等もやっていかれるという考え方になると思うが、事務局いかがか。

(教育長)

ハード整備等も含め当然考えていかなければならないと思っている。ただ、まだ具体的なところは、これから財政計画等の中に組み込むなど、庁内の方で検討していかなければいけないが、こうやって審議を進めていただき、そして教育委員会で基本計画を策定するというのであれば、当然そういったことも踏まえながら、実現に向けて着実に進めていくという考えである。

(会長)

どうしても児童生徒数や或いは教育の内容や通学等が話題に上るが、この審議会でも 3 回目、4 回目で詳しく説明があったように、施設の維持管理、或いは新設等の予算等も含めて適正配置を考えていくということになる。

(委員)

布部、比田、赤屋等の小規模で 1 校を残していくというお考えだと思う。こういった学校は地域づくりを特段強化することを要請するとあるが、仮に地元の人たちが、前向きに閉校に向かっていこうと、発展的解消という考え方が出てきた場合、それも許容するという考えでよいか。

(会長)

実際にはこの答申の前提 1 の (3) で、「住民・関係者の意見を十分に踏まえ」という部分が入ってくるので、結論から言うと委員がおっしゃるようなことはあり得る。

つまり、一応我々の案は、出していくが、それを地元やパブリックコメントで市内全域に、出した際に、強い意見が出たらそれについては考慮しないといけないと思っている。

従来、想定される強い意見というのは、学校の統合反対の意見が強いが、最近は逆に統合して欲しいという意見も出る。私たちはこの審議会で、大きい権限をいただいております、住民がそう言うからそうしましょうではなく、沢山勉強し 1 年間かけて議論しているので、そういう意見も踏まえ、私たちが最終的には判断するという事。

(委員)

赤屋が統合しないという会長私案が出ていて、うれしい反面、子どもの今の生活を見て考えると、中学に入学したとき、他の学校は小学校から一緒にいる中に入っていくのはどうかと思った。

だが、先日の大雪で改めて感じたが、赤屋は雪が深く雪が降ると出られないことがある。やはり子どもにとっては近くに学校があった方が、親も安心すると思うと、距離は大事だと思う。

(会長)

おそらく具体的にこういうものが出てくると、地元でも議論が起こる。その意見を参考にしたいし、一つの材料として資料 2 の方で、非常に詳細な意見をいただいているが、これはある意味限られた方の議論なので、トータルで考えていけないと思う。

(委員)

資料 3 の適正配置の会長私案ということについて、地域の皆さん方のいろんな意見を伺う中で、非常に色々な意見がある。私の言うことが、その地域を代表しているという意見ではないかもしれないが、他の交流センターの会長の話も聞きながら、私なりに感じたところをお話しする。

私は、今回会長の話の中にあつた宇賀荘小学校、南小学校、能義小学校のある安来南ブロックだが、会長私案として、それぞれの学校をそのまま残すとなっているが、地域の皆さんの話を聞く中では、今の少人数の中よりも、もう少し人数が多い中で、子どもたちがいろんな人と集う環境を作ってあげたほうがいいのではないかと意見が多かったように思う。

昔から宇賀荘、南、能義というのは、地域的な繋がりががあるので、この 3 校は一つに統合したらいいのではないかと考えている。

中学校について、二中と三中という統合の案だが、伯太中の校区と昔から地域的な繋がりがあつたということもあり、伯太中と二中を一緒にしたらどうかという意見があつた。二中と三中という意見は

なかった。

もう一つは中学校と小学校を今の二中の付近の方に小中一貫校として一つの場所にまとめてはという意見もあった。

色々な基準があり、すべてを満たすということは難しいので、どこかで目をつぶらなければならないと思う。地域の立場に立つのか或いは子どもさんの立場に立つのか、教育現場の人の立場に立つのか、それはもう少し議論を進めていく必要があると感じた。

(委員)

会長私案の前提の考え方の確認をしたいが、2. 適正規模適正配置の基本的考え方の中で、(3)の小学校については地域的まとまりを重視するため、現行の校区単位で検討する。(4)は中学校については、地域的まとまりを重視しつつも校区再編の可能性を否定しないとある。これは裏を返せば資料3の裏の表になるような言い回しという意味合いでいいか。

(会長)

そうではない。(3)の小学校については今の小学校単位で動かす。中学校は校区の線引きも変えることもあり得るという意味である。結果的には、校区は変えていないのが原案であるが、考える際の選択肢を否定しないという意味である。

(委員)

一応、適正規模、適正配置という検討会の内容なので、当然学校数が減ったり増えたり、新しい学校ができるということを検討するべきだと思っているが、仮に中学校の二中と三中が一緒になった場合、この二つの中学校の小学校区をみると宇賀荘から荒島の5校。ただ人数的なこと言うといけないかもしれないが、5校の児童数を合計すると、おおよそ十神小に近い人数になる。同じ小学校区の5つの地域の子どもたちが、一つの中学校に行くという考え方をすれば、まだ小学校五つを一つにした方が、慣れてきた時に、同じ中学校へ上がることができる。

私らも生まれたときから、通う学校が決まって育ってきたので、これが今ちょうど転換期であり、何年かすると、スムーズにいくのかなと思うので、今一番大事な議論をしている最中だと思っている。会長私案でいくと、この小学校5つを1つにする案を出してもらった方が、中学校に上がりやすいと思った。

合わせて交流センターの地域づくりのあり方検討委員会も含めて、そうなると同じような活動をそれぞれの地域が分散するということになるといけないので、そこも含めて一緒に検討するべきだと思う。

(委員)

安来市では小中連携協議会があり、小中の連携をそれぞれ5つの中学校ブロックごとにやっている。広瀬の校区はとても特徴的で広瀬小学校は非常に人数が多く、山佐小、布部小、比田小の人数が少ないため、卒業して広瀬中学校に行った時、その3校の子どもたちがなじみにくいという声があった。それが直接不登校等に結びつくかどうかはわからないが、学校に行きにくいとか、人間関係に悩むことがあり、小中連携協議会の中で一番配慮してきたのは、小中の連携はもちろんだが、小・小の連携だった。どうやって、6年生が卒業するまでに、広瀬小学校を含めた4校で知り合いになっておくか、できるだけ子どもたちが交流を深めておくということをお願いし、中学校に行ったときにいいスタートが切れるということを考えてやっていた。

通学の問題があり、比田小と赤屋小が単独となる会長私案があるが、こうなると広瀬小、山佐小、布部小が一緒になった場合、170人位の学校と比田小が18人、また、安田小、母里小、井尻小が一緒になって120人位になった時に、赤屋小が22人、そういったイメージを保護者や地域の方が持って考えているのか。案ができていないので働きかけもこれからだと思うが、そういうイメージも一つ持った上で、それでも残った方がいいと考えられたり、こちら側としても残した方がいいと考えるのかというところは非常に大きな視点だと思う。そこも含めてどう考えるのかという意見をぜひ地域や保護者の方に聞く機会をもつといいと思う。

2点目は、大森小学校に勤務していた際、赴任時は全校で16人だったが、3年目は9人になった。しかし、大田市の統合計画にすべて反対し、校舎の改築もせず、統合せずに単独でやっていくという地域の気運があった。以前は、大森はゴーストタウンだと言われていたが、努力により今やNHK等いろいろなところで取り上げられるようになった。布部の方が、単独で学校を残していくということが、どれだけ地域の方が力を合わせたり、保護者の方と一緒にやっていくのかということ。特にこども園をどう活性化していくのか。大森は保育園の方にも力を入れていた。中村ブレイスとか群言堂など、大きな企業があることも大きいですが、存続するためにはどのような努力をすればいいのか、イメージを持っておかれるといいと思う。

3点目は、今複式学級がある宇賀荘小、南小、能義小が会長私案では、単独で残るということだが、そのあたりも、先ほどから話が出ているが、考慮していくべきところもあるかなと思う。

最後に、先ほど、二中と三中の統合について、二中と伯太中という話があったが、かつての母里藩の時代からの結びつきもあり、高齢の方やある程度それを知っている方、交流がある方は、伯太地域と南の地域が結びついていると思われる。同じ伯太川筋でもある。ここも地域の人の思いを聞いてみる機会も必要だと思う。実際にこういう私案が出ると、意見が動くと思うので、それぞれの地域の方の考えや保護者の方の考えを一つ案が出たところで聞いていくのも重要だと思う。

(委員)

会長私案について、広瀬地区は令和9年の人数見たとき、山佐小学校は12人もいるのか、それなりに頑張っているなどと思った。だが、実際は山佐小校区に住んでいながら、広瀬小学校に行っているという家庭が現在もある。だから、私案で山佐小学校と広瀬小学校が一緒になることについて、致し方ないと思った。

また、布部小学校は地元からの要望があったようだが、令和9年度の10名の子の保護者が、布部に学校があるのに布部小に行かず、広瀬小に行くことを選択するということがあるとあまりよくないと思う。この地元からの要望が、どういった方からの要望なのか、現役の保護者さんも含まれているといいのかなと思った。

また、比田小、赤屋小の距離的などところについて、スクールバスでの通学を想定されているが、比田、赤屋地区内をすべて回って行くから、遠くなるという話があった。スクールバスにこだわらなくてもいいのではないかと思う。広島県三次市の学校には、タクシーがたくさん来る。スクールバスは見たことがないが、学校から遠い子は、タクシーで行き来をしていると思う。必ず通学に使うのがスクールバスでなくても、タクシー等他の手段はあるのではないかと思う。そう考えたときに、比田小、赤屋小もまた考える余地はあるのではないか。

(委員)

荒島小と飯梨小が仮に統合して、赤江小と現状で三中に行くと、クラスのメンバーもシャッフルができると思う。二中と三中が仮に統合すると、会長の適正配置の基本的な考え方の中学校の方は、校区再編の可能性を否定しないとしてあるが、校区は変わらない。赤江小学校は、中学校に入る際に、同じ小学校を卒業した後に現状でも一中三中に分かれる現状があり、地域の方の意見では、そんなものだから気にしていないともあるが、荒島、飯梨、赤江小学校の説明会はこれからなので、可能であれば、この私案を出すといい。私案は説明会の時にも出してもいいか。

(会長)

前日も今回も、公開で実施しているので会長私案を出してもいい。ホームページにも載る。資料2は出さない。

(委員)

具体的な事案が出ると、荒島も今まではあまり変わらないと思っていたが、私案を見て、むしろこれからいろいろな意見が出てくると思う。会長私案はとても良いのを作っていただいたと思う。

せっかくここで中学校の編成をするなら、赤江小が不自然な形になっているのをどうにかできないかと思う。

(委員)

宇賀荘で行われた説明会で聞いたことを話したい。

総じて、保護者の意見や地域の方の意見を聞くと、小規模校だからといって特に不便なことはなく、いいところもたくさんあるのでそのままでも問題ないと思っている方が結構たくさんいた。

一方で、能義、宇賀荘、南小学校は、以前から結びつきが非常に強いところだったので、特にこの3校が一緒になることに違和感は全くなく、むしろ一緒になるものだと思っている方がたくさんいる。地域の方からも、特に反対があるというわけではなく、むしろ一緒になった方がいいというような意見も結構あった。しかし、場所がどこになるのかという意見が非常に多くあったように感じる。

中学校区については、部活の問題であったり、何か問題があった時の対応の仕方であったり、クラス替えがないといった問題がたくさんあるので、保護者の間でも地域の方からも、とにかく中学校は早く大きい学校にして欲しいという意見がたくさんあった。

ただし、二中校区については、伯太との結びつきが多く、伯太中と一緒にいるものだと思っている方が多い。今回三中と二中の統合という私案が出ているが、これを見たら、かなりびっくりされると思う。

(委員)

先日のような大雪や、台風など、天気の悪い日は、親としては、何よりもまず無事に帰ってきて欲しいと思心配する。親の一番の望みは無事に学校に行き、無事に帰ってくること。これが私の中では最優先だと思う。その上で、成長していくためにそのような学びやすい環境が必要かということに繋がってくると思う。子どもが一番危険にさらされるのは間違いなく通学の時間だと思う。ここに少し重きを置いて検討していくことが大事だと思う。

(委員)

伯太中が単独で存続するってということで、伯太中はクラス替えがないことが気になっている。以前グループ討議をした際や資料2で地域の意見を見る中でも、中学生になると思春期でクラス替えがあった方がいいという意見も多かった。そこが気になっている。

また、先日、赤江の方と話をする機会があったが、なぜか赤江小が全部三中校区になるという噂が独り歩きしているようだった。そうすると、今住んでいるところは、現行でいけば一中校区だが、三中校区になると、部活の問題が出てくることを心配されていた。部活だけがその中学校を選ぶ視点ではないと思う。今、国でも部活動を地域移行していこうという話もある。子どもが、部活やスポーツを始めた際に、やりたいスポーツが、そこでできなければ、松江に行ったり、米子に行ったりする方もたくさんいるだろう。小中学校の適正配置と話はズレるが、そういった地域でのスポーツの選択肢も一方で充実させていってもらいたい。

(委員)

今、会長私案で統合校等々出ていて、これは一応会長私案ということだと思うので、今後、地域の意見を聞きながら慎重に進め、統合するところは統合する、残して欲しいというところは残して、地域の意見を尊重して行く方がいいと思う。

最初に会長から話もあったが、私も会長がテレビでお話されるのを聞いたが、その中で、これはあくまでも会長私案ということをはっきり言われたので安心して見ていた。だが、新聞には決定事項のように書かれていて、これが市民にどのように伝わったのかと少し心配している。

比田は、先日の雪でも70センチ積もるような雪深い地域である。先ほどタクシーでの通学という提案もあったが、まず除雪が間に合わない。統合して広瀬の方に出るとするのは無理だと感じた。

また、比田地区は範囲が広く、10キロ位離れている地域のため、スクールバスで、子どもたちを乗せて回るだけでも1時間かかるだろうと思う。

地域としては学校を残して欲しいという思いがあるが、本当に最後の最後の1人になるまで残してほしいのかどうかということまでは私もわからない。地域との話し合いを大事にして、この会長私案での検討を慎重に進めたいと思う。

(委員)

地域振興課の交流センターを核とした地域づくりのあり方検討委員会の話の中で、中間支援組織というところの重要性を強く感じた。地域の中には商工会や郵便局などがあるが、特定の目的でしか行かない関わり方である。益田のユタラボのように、より身近に市民が関わりやすい、入りやすい、窓口になるところが安来市の中にもできればいいと強く感じた。

地域の人たちが関心を持って関わり、たくさんの意見が出る場所になると思うので、中間支援組織は大事だと感じた。

会長私案を、地域の方などに話をすれば、もっとたくさんの意見が出てくるだろうと思った。

先ほど他の委員の意見をきいて、会長私案とは別の形の統合案が出たが、なるほどと思った。また大田市大森町の取り組みについてはとても興味深い。

また、やりたい部活、スポーツができるところが安来市にないケースもあるという話があったが、子どもたちの可能性を広げる意味では、スポーツに関してもいい環境を作るということも大事な視点だと思う。子どもたちの将来についていろいろな角度から考えることが大切だと感じた。

(委員)

私は基本的には、将来を見たときに、まとめられるところは、まとめるべきだろうと思っている。会長の私案を見ても、伯太で赤屋だけが残っているが、実は私が中学校一年生の時に、伯太中学校と赤屋中学校が統合している。当時は寮があったが、現状はやはり交通の便や道路の状況がある程度確立

しているので、今はイエローバスが中心だが、デマンド的なものなのか、スクールバスの組織のあり方、仕組みのあり方、こういったものも併せて検討していけば、伯太地域だと、十分統合可能だろうと思う。

答申の有効期限のところ、中間での見直しがないかと言ったのは、第一段階ではこういう格好になるが、何年か先に状況の変化で全部統合していくということも含めた考え方もありかなという思いがあった。中学校はできるだけクラス替えや、人の交流ができる形を考えるべきだと思う。小学校の関係で先生と話をする中では、クラスによっては、男子だけ、女子だけというクラスが、かなりあって非常に学校の先生としては、子どもたちがかわいそうだということもあり、できれば、ある程度統合して、そういうところも含めて、いろんな教育が幅広くできる体制にすべきだろうという話を伺った。

(委員)

個人的な意見として、私は安来の三中校区出身だが、母は伯太中校区の出身で、小さい頃からよく伯太は行き来をしていた。その時に伯太から関わりがあるのは二中校区で、自分が三中の時に、二中の人と多くの交流があったかと思うと、あまり浮かんでこない。そう思うと二中と伯太中の方が、自然な繋がりだと思った。

中学校ではクラス替えのことがあるので、今の二中の生徒数よりは、統合した方がいいと思ったので会長私案で統合としてあるところは賛成だが、どことどの学校を統合するかというところは、地域の方の意見も聞いて、考えてもいいのではないかな。

また、比田小、赤屋小については、距離のこと、立地条件のことで単独というのはわかるが、能義小、南小、宇賀荘小は、距離だけを見るとそれほど遠くはなく、子どもたちも二中に上がる時に、何かしらの繋がりもあり、知らない仲ではない様子である。地域の方の意見を聞き、本当にその今のままがいいのか、3校が一緒になった方がいいのかを検討していくといい。

(委員)

基本的に会長の私案でいい。子どものよりよい自己実現や、社会的自立を考えたときには、もう少し踏み込んでいいと思った。今もいろいろ意見が出ているが、宇賀荘小、南小、能義小あたりが、保護者、地域からも一緒にしてもいいという意見もあるようなので、そのようなことも考えてもいいのではないかな。

広瀬地域、伯太地域についても、初めから外す形ではなくて、4校統合に向けて交通手段等を考えていきながら、どうしてもそれが難しいということになれば外すのはどうか。他にいい方法があれば、一緒にした方がいいのではないかな。

中学校は、今日配られた資料を見ると、令和17年度には、伯太中も広瀬中も、単学級になる。いずれ安来は、2校でやっていかなければならなくなるのではと思う。それをいつにするかも考えていく必要があるのではないかな。今回の時点でそれも含めて考えていくのか、二段階で考え、もう少し先で考えるのか。いずれにしても広瀬、伯太も今のままずっとやっていける感じはなさそうだなと資料を見て思った。

(委員)

この問題の根源は人口の減少、少子高齢化、人口の偏在化、校舎の老朽化だと思う。これに対する回答を審議会でも持っておかなければならない。その文言を、答申の中に入れていくのはどうか。

他の委員からも発言があったが、保護者は子どもの安全を第一に望んでいる。学校は地域の避難施

設になるような場所であるので、ハザードマップ等により急傾斜地の確認や、水没の心配はないかを確認するなどもしなければならぬし、答申の中に入れるかも検討すべきことだと思う。

義務教育学校は難しいと私案の中であった。人口が密集している地域、学校がある程度まとまった狭い範囲にある複数ある場合は、一つにまとめることができると思うが、中山間地域は難しいと思うので、会長私案のとおり、中学校の統合と小学校の統合は分けて考えるべきだと思う。ただし、9号線に近いところは、人数が集中しているので分けていくことを考えるべき。

子育て世代は、地域との繋がりより、利便性を重視する方が多いと思う。学校は通わせやすい位置にあるというのも大事であるので、利便性の良い位置に学校を配置するというのも重要な視点であると思う。

また、小学校を統合すると、こども園や、放課後児童クラブについて心配される保護者もいるだろう。もっとこども園の保護者、児童クラブの運営者、市の子育てを担当する部署もこの会議に参加していくといいのではないか。

(会長)

答申案には、そういうことを多分に含めていく。今はある種、結論というか、適正配置の学校の配置のみを取り出して議論していると理解いただきたい。

(委員)

布部地域は、どじょっこテレビの放送や、新聞等を見られて、要望が出たとあったが、比田の方は残してほしいという意見は聞くが、まだ盛り上がりには欠けている。比田は多分残るのではないかというのがあって、危機感がない。布部はこども園も存続ができないような話もあるので、いよいよ危機感があり動いているようだ。

地域では、後援会長等が動かれているが、保護者の方がどうかという疑問がある。動きが鈍いよう感じる。こども園の関係の方がもう少し動いてくれたら、もっと盛り上がるのではないかと思う。

また、布部では、昨年度も子どもを連れて布部へ帰られた方がいる。小学校、こども園が近いからと、住まれた方、古民家へ入られた方もあり、少しずつだが動きがあるため、地域もこのままではいけない、学校を残したいと盛り上がっている。

残してほしいという思いはあるが、会長私案の 5.付帯事項に、小規模校で存続する小学校の校区については、地域づくりを特段強化することを要請すると書いてある。確かにそうで、実践していかないと地域の存続ができないし、衰退する一方だろうと思うので、この私案をもっと見てもらい、中山間地の方には危機感をもって動いて欲しいと思っている。大変だが、私も協力はしていこうと思っている。西谷地区から今こども園と、小学校に出ている子どもたちもいる。先日、雪が降った時にはとにかく不便だなというのがよくわかったので、適正配置を考えるにあたってはすごく検討していく必要があると思う。地域、保護者と意見を交換していきたいと思った。

(委員)

会長私案をもとに1月の前半に交流センターの運営協議会を開催した。いい機会だったので、いろいろな意見が出ると思ったが、至って低調で統合後の心配事ばかりだった。

スクールバスは広瀬小学校まで行くのか、生徒が増えたら教員も増えるのか、そんな話ばかりで特に異論はなかった。

答申が出て、市長や議会の承認が出たら、統合できるところは早く実施していくという考え方に持

っていつてもらいたい。山佐小学校は奥田原と上山佐の2つで児童が今9人。奥田原が7人で上山佐は2人、未就学は4人であり非常に子どもが少ない。

広瀬小学校に上山佐からも通っているが、地元にもこども園がないから、広瀬のこども園に出ると、そこで保護者も子どもも友達ができ、そのまま広瀬小学校に通うというパターンが多い。できるところは早く、広瀬小学校に統合していただきたい。

(委員)

伯太ブロックだが、各小学校のPTA会長、中学校の会長に意見が出ているか聞いてみたが、あまり出ていないということだった。先日、赤屋小の常任の会で、個人的でいいので話を聞いた。通学の方法を心配する声があったが、伯太は一緒になるなら一緒がいいし、バラバラだったらバラバラが良いという声もあった。子どもが中学校に行った時のことを考えておられて高学年になると友達関係がすごく重要で、中学校に比べて人数が多くなり、友達関係で悩むこととか、よその小学校の子がにぎやかにしているところに赤屋の子は入っていけないこともあるようなので、もし一緒になるのであれば最初から一緒した方が、子どもの気持ちとしても安心だと思う。

安全を考えると、先日のような雪は大変なので、学校は近くがいいとは思いますが、交通の便も良くなっているから、保護者の心配もあったが、何とか有料バスで通わせることもできなくはないと思う。

また、中学校について、私自身も三中出身だが、二中とは全く交流もなかった。子どもが伯太中だが、部活動の関係で二中から伯太中に通ってくる子が結構いた。二中と伯太中は繋がりがあがり、練習試合も自転車で行ける距離なので、二中と伯太中が一緒になった方が人数的にもいい。伯太中も今クラス替えができないクラスが多いようなので、思春期で何かあった時が心配。

先日から新聞に会長の意見が出たり、テレビで報道されたりしたことで、やっと私の耳にこの適正配置の話が入ってきた。今回の会長の私案を出したところで、初めて赤屋の人たちも騒いでくれるかなと思っている。保護者やもう少し若い世代のお母さんたちの意見を聞きたいと思っている。

(会長)

意見の整理ではなく、進め方について整理させていただく。

まず本日はこれ以上の審議をせず、継続審議にさせていただくがよろしいか。

(委員)

(承認)

(会長)

次に、今日の審議会では、学校の配置のアイデアや適正配置の進め方に関わり意見が出た。その中で段階制という意見は私も以前から思っていた。つまり、再編のパターンは一つだが、時期をずらして考えていくというのは非常に有効だと思う。それ以外のことも含めて手法についても考えていきたい。

また、会長私案がこのまま独り歩きすると、話がややこしくなりそうなので、皆様のご同意をいただいたら、会長私案をここで差し替えさせていただきたい。

まず中学校の方であるが、合併前の町村を跨いでの統合は、ほとんど例がない。隠岐や大田だけではないかと思う。私はそこにもものすごく抵抗があったが、皆さんからは二中と三中の統合は厳しいという意見が大半であったので、今、三中と二中が統合校としているところを、二中と伯太中を統合校にすると差し替える。

小学校は、このままだが、宇賀荘小、南小、能義小を布部と同じように統合校も併記する。

この場では口頭で差し替えさせてもらうという取り扱いで、委員の皆さんよろしいか。

(委員)

(承認)

(会長)

当然これは検討のための私案だが、仮のものが大きく変わると、混乱を招く可能性があるので、その2点を差し替えし、記録にとどめる。

どういう原案を作るかは次回ということにしたい。本日の審議はここまでとしたい。

(教育総務課長)

先ほど、説明会の時にこの会長私案の話が出るかという質問があったが、現在行っている適正配置の説明会は、あくまでも基本方針の説明であるので、今説明をしている内容を変える考えはない。

ただ、説明会の中で行っているグループワークの中で審議会の進捗状況として会長私案を説明し、それに対する意見を伺っている。

答申等が出たら、パブリックコメントや説明会を実施していく。まずは、一巡目の説明会ということで、現在まだ終わっていない説明会では、従来の説明をそのまま踏襲させていただきたい。

5. 今後の予定

第9回会議：未定

講演会：島根大学・安来市共同研究報告会「学校と地域の関係を考える」

- ・ 講演者 島根大学教育学部社会科教育専攻 作野広和教授
- ・ 日時 令和5年3月5日(日) 午前10時から
- ・ 場所 伯太中央交流センター(わかさ会館)

6. 閉会